

Q 本学を受験しようと思ったきっかけ・理由

- 友人が別の大学院に進学したことで、自分もよりレベルの高い院に進学したいと思うようになったためです。(J)
- 他大学院と比較し、かなりユニークな研究を行っており、エンターテインメント性や、ものづくりを行っている側面が強いことも感じ、受験を決断しました。(J)
- 産学連携に注力しており、産業界への貢献を第一に考えている点が自分に合っていると思い、志望しました。(J)
- 専門性の高いICT系の職種に就きたいと思っていたところ、地元において、外部生の募集に積極的なことを親から紹介され、電通大に決めました。(I)
- 興味ある研究が行われており、実際に見学した際に大学の雰囲気や設備に魅力を感じたためです。(I)
- 大学院における教育に力を入れていることと、外部からの受け入れが寛容だと感じ、志望しました。(M)
- 高校の頃から行きたいと思っていたのが最大の理由です。(M)
- 魅力的な研究を行っている研究室が多々あり、レーザー研内での連携があることもきっかけの一つです。(S)
- 本学の優れた設備を用い、最先端の研究をやってみたいと思いました。(S)

Q 受験対策や準備について

- 外部生は内部生に比べて情報が少ないので、実際に研究室見学などをして情報を集めることが大事です。TOEICは早めに対策しておくのが良いと思います。(J)
- 選択科目を早めに決め、対策を行うことです。(J)
- 早めに研究室訪問を行い、受験を経験した方々とコミュニケーションを取ることが大事だと思います。(J)
- 数学の基本的問題をしっかり習得することです。(J)
- 学部時代にコンテスト出場や論文発表などのアウトプットを多くしておくべきだと思います。(I)
- お薦めはとにかく過去問を見て、どんな分野の内容を勉強すれば良いのかを考えることです。(I)
- 線形代数/微分積分は授業の復習をしっかりとすることが大事です。(I)
- 数学→専門の順に勉強したほうが良いと思います。(M)
- 電磁気学については早い段階から理解を深めておくことです。(M)
- 過去の入試問題とそれに類似する分野を徹底して勉強してください。(S)
- 研究をしっかり行っていれば、推薦でのプレゼンテーションをスムーズに行えます。(S)

Q 研究室見学について

- 実際に研究室を見学することで、ネット上で研究室のホームページを見るだけよりも具体的に研究内容に興味を持つことができました。(J)
- 学生が意欲的に研究に取り組んでいるのを見ることができ、より受験のモチベーションが上がりました。(J)
- 紙の資料やWeb上ではわからない研究室の様子を感じることができました。所属している学生の話も聞くこともでき、具体的な大学院生活をイメージできました。(I)
- 教員や学生がコミュニケーションに積極的だと感じ、安心できました。(I)
- 先生や研究室の方々の雰囲気がわかり、入学後の自分を想像することができました。研究室を実際に見ることで、よりやる気が上がっただけでなく、入学までのことや受験のアドバイス、卒業後の話などを先生からいただき、安心して受験できました。(M)
- より進学したいという気持ちが高まりました。(M)
- 他の研究室との連携がある点が大きな利点だと思います。(S)
- 教員の数が多く、研究設備も自身の大学と比べて整っているように感じました。(S)

Q 大学院生活に向けての期待

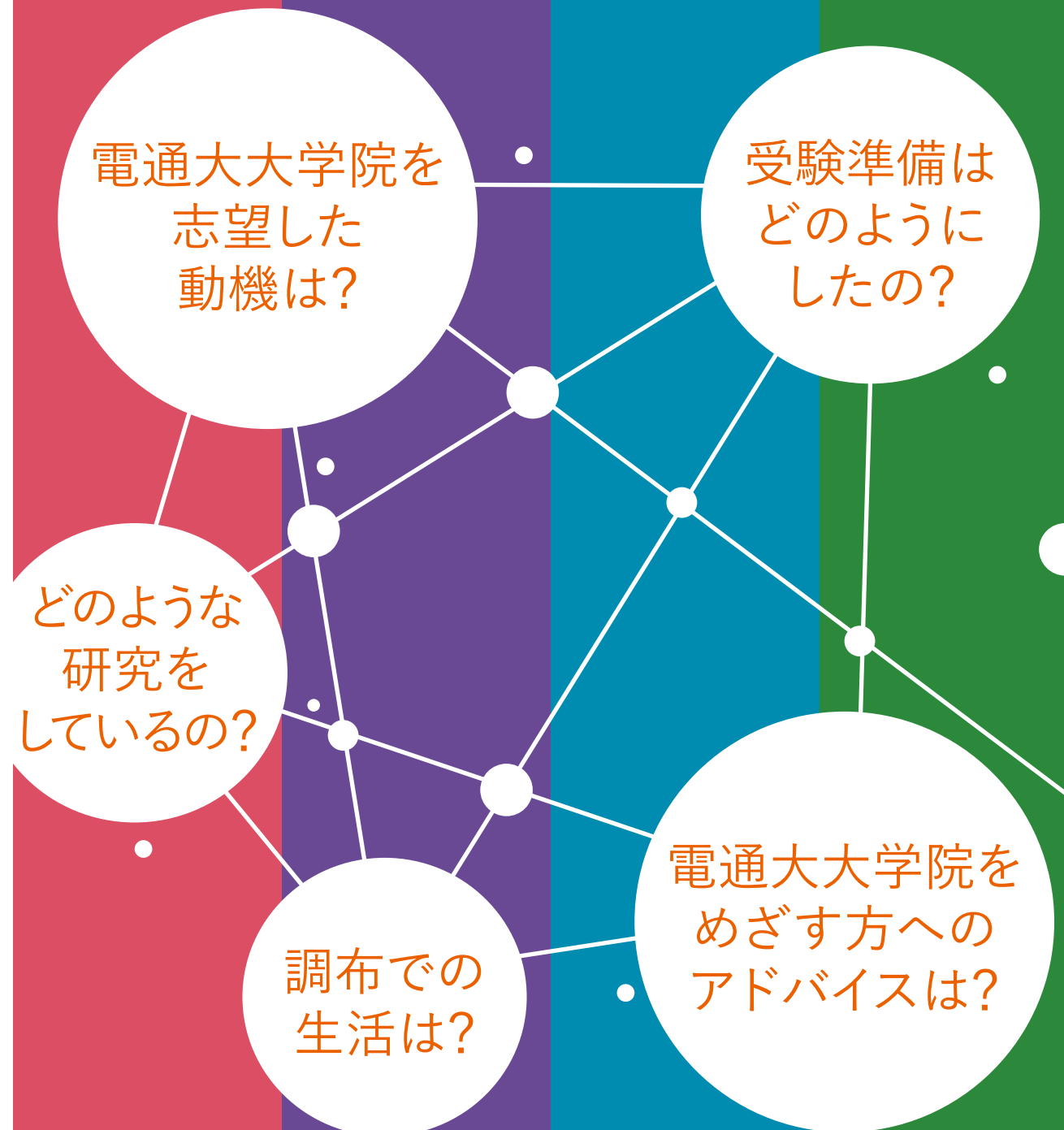
- 他大学からの入学なので、まずは環境に慣れるところから始め、自分の研究をより広く深く進め、知識や経験などの能力向上にも努めていきたいと思っています。(J)
- 私は自分で研究した内容が社会にどう活かされているかが重要と考えます。在学中に学会等で他校や企業との交流を積極的に持ち、研究・開発・実用化が一貫してどのように行われているかを学びたいと思っています。(J)
- 高専で得たことも踏まえながら、大学院という新しい環境で自分の能力が伸ばせるよう努力します。(I)
- 新しい学生生活を楽しみにしています。(I)
- 目標である国際学会へ向けて勉学・研究に励みたいと思っています。(I)
- 第1志望の研究室に合格することができ、憧れの先生の下で研究ができるので楽しみです。(M)
- 留学を長期で行いたいと思っています。(M)
- 自分の望んでいた研究ができてとても光栄です。自らの成長のためにも精一杯頑張りたいと思います。(S)
- 世界初の光子検出器を作り、その応用について研究し、インパクトの高い論文を書きたいと思っています。(S)

※入学者アンケートより抜粋

Advice for you

学外から電通大大学院をめざす方へ

受験準備から研究への取り組みまで
現役院生からのメッセージ

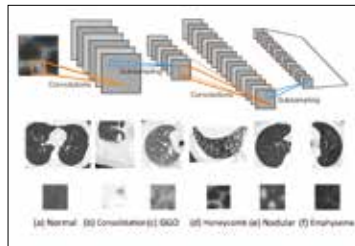


情報学(J)専攻

電通大は高専や他大学からの受け入れに積極的で、研究に適した環境が整っています

メディア情報学プログラム 博士前期課程 1年 男子
津山工業高等専門学校専攻科電子・情報システム工学専攻出身

高専時代には機械学習の研究をしており、研究室の先生が電通大のご出身ということから電通大の大学院に興味を持ちました。専攻科1年の頃、電通大で開かれた神経回路学会



(庄野研究室)

に参加したことや、同大学の研究室にインターンシップでゼミを経験したことなども志望理由のひとつです。

私の場合、推薦入試と一般入試の両方の受験準備をしました。受験対策としては現在行っている研究を推し進めることと、その研究をよく理解し、相手に的確に伝えられるようにすることが大切だと思います。

現在は機械学習を用いた研究をしており、医療画像を取り扱うのが主な領域です。電通大にはAIX(人工知能先端研究センター)が新設され、所属する研究室なら最新の高性能計算機十数台を自由に使えるため、非常に有意義な研究ができています。

研究をしたいという意欲のある人は、身構えずに肩の力を抜いて受験してください。

全力を尽くし、成長したい人におすすめします。まずは院試の壁を突破し、実りある大学院生活を!

メディア情報学プログラム 博士前期課程 1年 男子
関西大学システム理工学部出身

大学4年のときに配属されていた研究室で、学習工学という分野の研究を行っていました。そこで、探求することのおもしろさを知り、大学院に進学してこの分野をより深掘り



(柏原研究室)

りたいという気持ちに。他の大学院への進学を検討し始めたとき、電通大の大学院には学習工学に精通した素晴らしい教授がいらっしゃることに、ウェブサイトなどを通じて研究に対する熱量を感じ、本学の志望に至りました。

現在はロボットを用いた英語の音読学習の支援をする研究をしています。大学4年のときを含め、人が何かを学習する際の支援をするという研究を行ってきたので、将来もこの経験を活かせるような学習・教育の仕事に携わりたいと考えています。

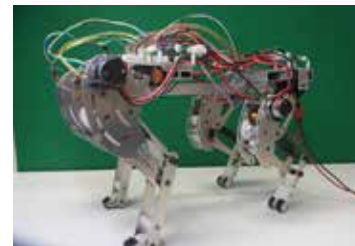
電通大はとても活気があり、学生も教授も全員が常に全力です。楽しさや充実感を得られるに伴い技術力や思考力が身につくのも良い点で、就職率が良いといわれる要因はおそらくそこにあるのだと思います。

機械知能システム学(M)専攻

早めに研究室見学へ行き、実際の雰囲気や研究内容を知っておくのが大事です

先端ロボティクスプログラム 博士前期課程 1年 男子
山梨大学工学部出身

学部時代に機械・電気・情報の3分野を学ぶうち、ロボットへの興味が大きくなっていきました。なかでも災害救助ロボットに興味があり、その研究をしている研究室を調べて



(明研究室)

いくうちに見つけたのが、今の研究室です。

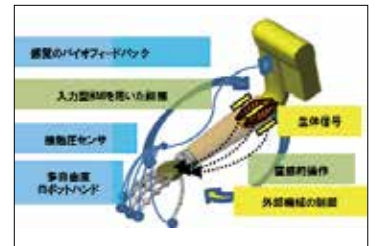
研究大学強化促進事業に採択されていたため、研究の環境が整っている点にも魅力を感じましたが、一番の決め手になったのは、研究室で研究内容を見せていただき、それが自分のやりたい内容と合致していた点です。実際に足を運び、研究室の雰囲気や研究への姿勢を知ることができたのは大きく、電通大の大学院を志願する人は早めに研究室見学をしておくが良いと思います。

電通大では世界に負けない研究が行われており、熱心に取り組んでいる学生の姿勢に日々刺激を受けています。留学生が多く、私自身としては、英語を使用する機会が多いのも良い点だと思います。

所属していた大学にはなかった研究室を全国から探して、電通大へ

先端ロボティクスプログラム 博士前期課程 1年 女子
熊本大学工学部機械システム工学科出身

大学院に進学する際、友人から他大学の大学院を受験すると聞き、そういう選択もあるのだと気づきました。電通大の大学院に決めたのは、現在の研究室で筋電義手に



(横井研究室)

に関する研究を行うためです。

受験の準備としては早めに過去問を取り寄せ、出題範囲や傾向を見て、選択科目を決定しました。出題傾向が変わっても対応できるように、過去問は実力確認のために使い、教科書を中心に勉強しました。外部からの受験は情報が少ないので不安ですが、電通大は過去問を公開していますし、オープンラボや説明会などもあり、外部生に優しく、助かりました。

大学院に入ってから学生知識の幅広さと技術力の高さを感じました。電子工作やアプリを趣味で制作している人も多く、自作してみようというエンジニア気質の人が多く印象です。

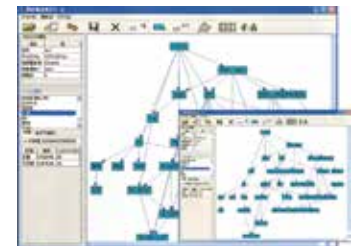
電通大は都心に近いため、インターンや企業が開催している勉強会などに参加しやすいのも利点です。

情報・ネットワーク工学(I)専攻

電通大には真面目な学生が多く、研究に集中できる環境があります

情報数理工学プログラム 博士前期課程 1年 男子
早稲田大学教育学部数学科出身

大学では、数学に関するさまざまな分野の勉強をしてきました。電通大を志望したのは、ペイジアンネットワークという確率モデルを研究している研究室があることを知り、



(植野研究室)

ここで研究に携わりたいと思ったのが動機です。

私は推薦入試を利用して入学したため、受験に際して一般入試の勉強は特に行っていません。しかし、推薦入試を受験するためにはGPAが基準以上であることや、指導担当教員と学部長からの推薦状が必要であり、学部での授業内容の十分な理解は推薦入試でも必須です。面接では学部での研究内容とその成果、電通大の大学院の志望動機、入学後にどのような研究を行いたいかが問われるかと思っています。面接の準備としては、研究予定に加え、自身の将来設計についても熟考し、意思を持っておくことが必要になるかと思っています。

電通大には、学部での研究分野と異なる分野の研究を志願する人にも、自身の成長に繋がる良い環境があります。

研究室見学では雰囲気を重視しました。先輩方はみなさん有名企業に就職しています

情報通信工学プログラム 博士前期課程 1年 男子
鹿児島工業高等専門学校専攻科電気情報システム工学専攻出身

専攻科1年の夏に3つの大学の研究室に見学に行きました。大学のネームバリューも大事だとは思いますが、私が注目したのは研究室の雰囲気です。電通大ではAWCC(先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター)を見学



(藤井研究室)

しました。そこで感じたのは、研究室なのに和気あいあいとして過ごしやすい点です。研究室の先輩に気兼ねなく質問出来たり、同期で意見を交わし合うことのできる環境はとても重要だと思います。

私は電通大で「スペクトラムセンシングにHMMを用いた複数プライマリユーザのパラメータ推定」というテーマで研究をしています。実際に入学し、一年を過ごしてみると研究室での生活は非常に有意義で、研究に打ち込んでいる状況です。

無線通信系の研究をしたい人は、ぜひAWCCの研究室へ。電通大は立地も良く、息抜きできる環境にも恵まれており、所属していた先輩方はみなさん有名企業に就職しています。

基盤理工学(S)専攻

オープンラボの機会に研究室を直接訪問。電通大では研究会や講演会なども頻繁にあります

光工学プログラム 博士前期課程 1年 男子
東京農工大学工学部出身

私が電通大の大学院を志望した理由は、一言でいうと電通大が、光に強い大学だからです。光工学プログラムだけでも光の研究室は17もあります。これほど光の研究室が多い大学は、珍しいと思います。



(桂川研究室)

学部4年生の頃、私は光源をつくりたい、光と物質との相互作用についてもっと知りたいと思うようになりました。そして研究室を訪問した際、この研究室でなら光と気体との相互作用を利用して新しい光源を開発できる、そう考えました。

電通大の良さは、知的好奇心を刺激してくれる環境が揃っていることだと思います。電通大では、研究会や講演会が頻繁に行われています。今まで私は、超高速光エレクトロニクス研究会、レーザー夏の学校、光コムや重力波検出の講演会などに参加し、専門以外の研究に関する理解を深めることができました。

私自身、電通大を選択したことに満足しています。皆さんも新しい環境に飛び込んで視野を広げてみてください。

研究設備と環境が整っている点に魅力を感じ、外部進学を決断しました

化学生命工学プログラム 博士前期課程 1年 女子
北里大学理学部化学科出身

これまで学んできた化学の知識を活かすつ、物性物理という新たな分野に取り組むことができることに魅力を感じ、物性測定の研究に必要な装置や環境が整っている電通大の大学院に進学を決めました。



(石田研究室)

大学に入学した当初から大学院への進学を志望していたので、学部生時代の講義は欠かさず出席していました。

推薦入試の面接では、どのような化学の講義を受け、勉強してきたかを面接官に知らせてもらえるよう工夫し、大学院で身につけたい知識や経験なども説明しました。

現在の研究室では磁性を示す有機物を合成し、その物性を調査するという研究を行っています。目的とした化合物が得られたときには達成感があり、やりがいを感じます。

私が思う電通大の利点は、研究設備と環境が整っていること、研究の時間を確保できること、最寄り駅から徒歩数分で大学へ行けること、この3点があげられます。